



播磨 ミステリーハント

播磨町の歴史や偉人の「?」と「!」について、秘められたトピックスなども交えながら紹介します。

文責 播磨町郷土資料館 宮柳靖
☎079(435)5000

・Mystery.1・

平成の「彦星」誕生!

平成24(2012)年12月28日、小惑星に新聞の父「ジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)」の名前が付けられました。正式な名称は「19156 Heco」と命名(名前を付ける)されたので、まさに平成の「Heco・彦星」の誕生です。

この小惑星を発見したのは、高知市在住の関勉さんです。関さんは、アマチュア天文家で comet hunter(彗星を探す人)として知られています。関さんの名前を有名にしたのは、昭和40(1965)年に池谷さんと発見した「池谷・関彗星」です。この彗星は、肉眼でも見られ、世紀の大彗星となったので記憶されている方も多いと思います。

関さんは、彗星6個と小惑星を230個余り発見されていますが、星の命名にあたっては特別な思いがあり、まだ名前をつけていない星がいくつもあります。高知県出身の偉人で、坂本竜馬やジョン万次郎(中浜万次郎)は、それぞれ「竜馬」「万次郎」と漢字で命名されています。昨年8月に誕生した「kannabe(神鍋)」はローマ字表記なので、命名する人たちの思いや願いによって表現も違ってきます。

郷土資料館では、3年前からホームページでジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)や今里傳兵衛などを紹介するページを充実させてきました。その結果、多くの方に見られるようになり、ヒコにかかわる様々な情報も寄せられるようになり



▲小惑星命名書(郷土資料館に展示)

ました。昨年の「新聞の父 ジョセフ・ヒコ展」が、マスコミで大きく取り上げられたことで、ヒコの名前を知られたようです。

関さんが、ヒコの名前を付けようと思われたのは、①ヒコが日本で最初に邦字新聞(日本語新聞)を発行したこと、②星を発見した9月20日(陽暦)は、ヒコの生まれた日であったこと、③播磨町がヒコの生誕地として功績を称え、熱心に取り組んでいることでした。

彦星は、直径約10km、明るさは13.9等星で、地球と同じように太陽の周りをまわっています。軌道は、火星と木星の間ですが、小さな星なので肉眼で見えることはできません。4月は、地球から5億5000万km離れていますが、ヒコの命日の12月12日には、2億5000万kmまで近づいてきます。

満1歳となる「彦星の日」には、新聞の父ジョセフ・ヒコ生誕地「播磨町」が、世界中の人たちに知られていることを願っています。

播磨町のホームページ <http://www.town.harima.lg.jp>
Eメール kikaku@town.harima.lg.jp



町の人口 3月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,818人(-13人)	男...17,080人(-2人)	世帯数...14,173世帯
	女...17,738人(-11人)	(-8世帯)